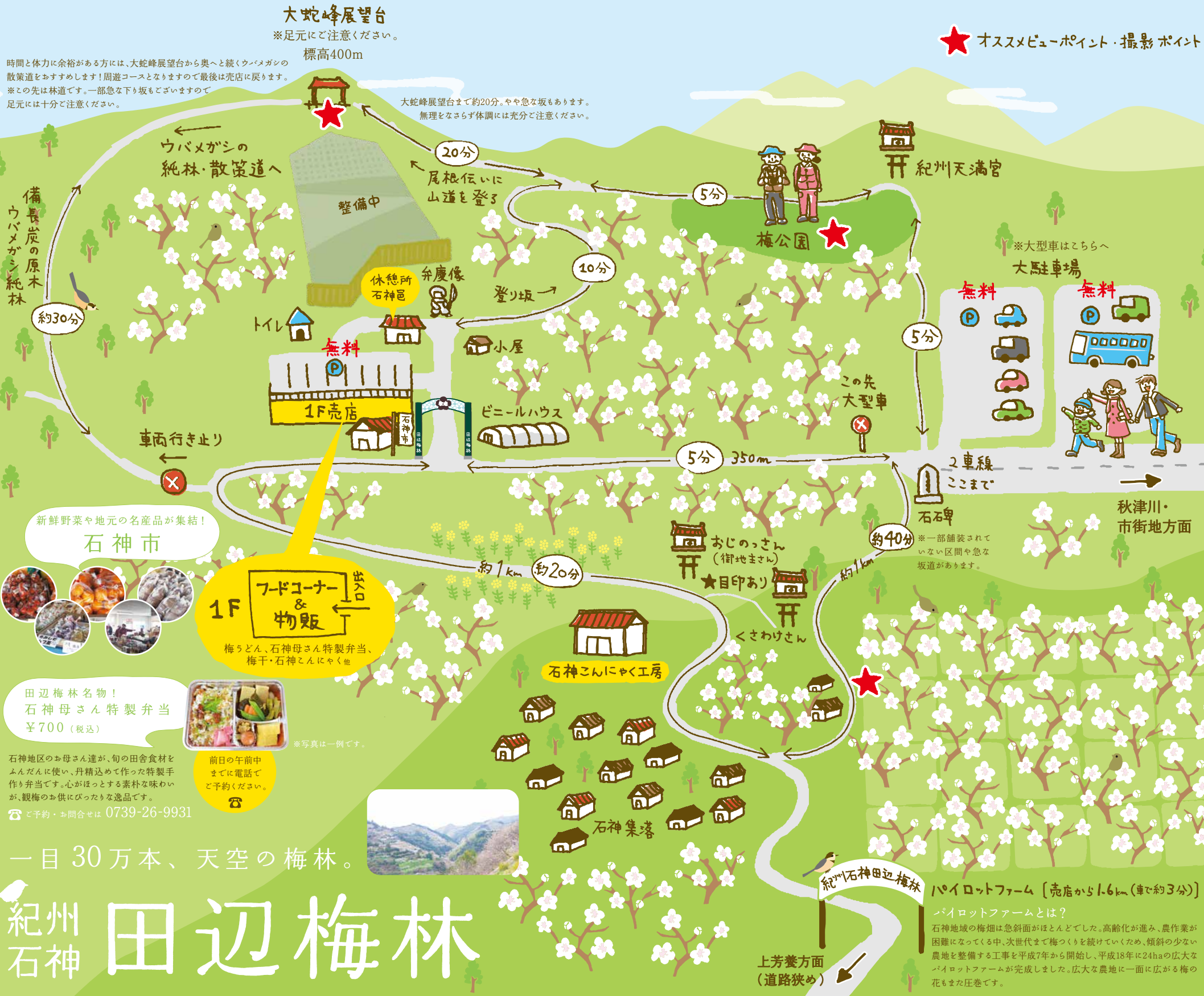




標高400mの大蛇峰をはじめとする山々に囲まれた、たった13世帯の集落からなる石神地区。江戸時代から梅栽培が行われていましたが、明治22年の大水害で大蛇峰がまるで半分に割れたように大崩落しました。その山肌に梅の木を植えたのがこの梅林の始まりです。黒潮の程よい潮風、水はけの良い土壌、惜しみなく降り注ぐ太陽。梅に選ばれたとしか言いようの無い奇跡的なこの環境で、代々梅栽培を生業としてきた人々が大切に大切に守ってきた梅の木々が春を告げる時、眼下に広がる梅畑が遠く太平洋に向かって山々と共に折り重なる様は当梅林の醍醐味になっています。その雄大な眺望をぜひ一度ご覧くださいませ。 ※昭和38年に「石神梅林」として開園し、その後「紀州石神田辺梅林」と改名いたしました。

石神伝説 ～石神地域に伝わる平家の伝説～

その昔、石神の奥にある宮の谷に住んでいた鎮守姫^{ちんじゅひめ}。戦に破れ逃れてきた平家の武士、石神録部^{ろくぶ}を介抱した事がきっかけとなり、二人は結ばれました。先に逝った鎮守姫の為に墓をたて供養した録部にも、ついに天のお迎えが。「わしを祀って、石神鎮守草別大明神で唱えてよ。ほいたらこの土地が繁盛するように守ったげらよ。」と言い残しこの世を去りました。現在でもその祠が残され石神地域を二人が見守り続けてくれています。